



# REINANZAKA SCOUT CLUB



2016年  
1月25日号

発行：霊南坂スカウトクラブ／日本基督教団霊南坂教会内  
〒107-0052 東京都港区赤坂 1-14-3 電話：03-3583-0403  
ホームページ <http://reinzak-sc.o.oo7.jp/>

No.49

## 賜物を生かす

霊南坂教会牧師 井上 創



私は霊南坂教会に来て初めてスカウトに関わりましたが、その精神と言いましょか、根っこの部分については、親しみを持っています。それは、私が小さいころから教会に行っていたからです。私が言うまでもないことですが、ボーイスカウトの活動は、キリスト教の祈りを以って始められました。今は宗教の垣根を越えているということを知っています。垣根を越えて、何か大きなもの、それはどう表現していいかわからないのですが、人間の力を超越した大きなものを感じつつ、この活動が進められているということなのではないでしょうか。大人になると、この大きな何かを感じる力が弱まるように思います。これは、私が子育てをしていて思ったことです。私には4人の子供がいます。それぞれを育てていて思うのですが、子どもというのは、親が教えることよりも遥かに多くのことを自分で学んでいます。そして、それを親に教えてくれます。相対的に見て、親が子に教えることよりも、子が自分で学んで親に教えることの方が多いのではないかと思います。大人というのは、今身につけている知識や経験は自分の力で獲得したと思ってしまいがちです。実際に勉強して、いい点を取っ

て、希望の大学に入って、望んだ会社に入って。誰もがそういう順風満帆ということはないだろうとは思いますが、そういった経歴というのは、自分の意志と力で築き上げてきたと思っている人も多いのではないのでしょうか。しかし、人生ある時に、そういった自分が全て決めて選んできたと思っていたことが驕りであったと思わされる時が来ます。その時まで、大人は大きな力に気付かないのです。

一方で、子どもは気付いている。意識はしていないかもしれませんが。しかし、自分の周囲には教師がたくさんいて、それは自然であったり、友だちであったり、それがいろいろなものを与えてくれて、それを素直に飲み込んでいくことで自分が成長していけるということがわかっているのです。ところが、大人はそれを邪魔してしまいます。「あなたに必要なものはこれだから」「これをしておかないと後で困るから」。そう言って、子どもが素直に吸収しようとしているものをどけて、自分の与えるものだけで育てようとしてしまいます。本来なら、子どもは、自分に相応しいものを、与えられるままに受けたものの中から見分けることができるはずなのでは、と私は思うのです。

「子どもを包み込む大きな力」を、キリスト教では「神さま」が与えてくださっているものだと考えます。

*Remember, you are YOU.  
You have your own life to live, and if you want to be successful, if you want to be happy, it is you who have to gain it for yourself.*

*Rovering to Success*



ベーデン・パウエル卿の言葉

**あなたは、あなた自身であることを忘れてはいけない。  
あなたには、あなたの生きるべき人生があり、成功して、幸せな人生を望むならば、あなた自身の努力でつかまなくてはなりません。**



それは、それぞれに違う大切な、神さまからの賜り物です。

半年の間、ボーイスカウトに関わってきましたが、スカウトでもそれぞれの持っている力を持ち寄って活動に取り組んでいるのだと感じました。親として、一人の大人として、素直に大きな力と向き合っている子どもたちの成長を見守り、また支えていくことができたと思っています。

## 霊南坂スカウト 誕生70周年を迎えるにあたって

### 70周年記念行事企画委員会が発足しました

委員長 清水 康輝

1947年この赤坂霊南坂教会の地にボーイスカウト港第1団（旧東京第4隊）、ガールスカウト東京都第4団が発足してから、2017年に70周年を迎えます。人の一生ほどの年月を同じこの霊南坂教会の地でスカウト運動を続けて来られたのは、そこに集ってきたスカウト、リーダー、保護者、またスカウト運動を見守り続けてくださった神様、霊南坂教会の方々の支えがあったことです。

2017年4月29日（土）、霊南坂スカウト70周年記念行事を開催することとなりました。ボーイスカウト港第1団、ガールスカウト東京都第4団、霊南坂スカウトクラブ（OG,OB）の三者でこの記念すべき日を共に祝うこととし、企画委員会が立ち上げられました。これから1年3カ月間かけて準備してまいります。スカウトもリーダーも、保護者、OB,OGも70周年の喜びを共に味わい、共に歩みたいと願いお知らせいたします。

**記念行事実施日** 2017年4月29日（土）

**テーマ** 「信じる心」

#### 企画委員会の組織

企画委員長 清水 康輝（BS）

企画副委員長 鈴木 充代（GS）

書記 内藤 正樹（BS）、向殿 裕子（GS）

会計 臼井 純一（SC）、古谷 久代（GS）

小野 俊夫（BS）

委員 西郷 崇子（SC）、倉持雅人（SC）

#### 実行委員会委員

##### ① 式典・礼拝

BS 小崎(信) (会計)・五十嵐

GS 備後(委員長)、箸本(書記)、  
小山(睦)(書記)、大塚

##### ② 記念品

BS 小野(委員長)、増山(書記)、増田

GS 斎藤、枝迫(会計)

##### ③ 記念誌

BS 矢野、濱田、山菅、西石垣

GS 小山(利)、余村

##### ④ 祝会 香川、向殿

##### ⑤ 年表「霊南坂スカウトの歩み」改訂版

SC スカウトクラブ

### 霊南坂スカウト70周年に向けて

スカウトクラブ 西郷崇子

思い起こせば「霊南坂スカウトクラブ」の誕生は「霊南坂スカウト」50周年を迎える3年前に準備を始めた1994年2月のことでした。50周年にウィリアムスさんを日本にご招待をすることと、現役団の支援助と会員相互の親睦と奉仕を目的に誕生しました。

「霊南坂スカウトクラブ」は他団のスカウトクラブと違い、ボーイスカウトとガールスカウトのOB/OGが共にメンバーとなっていることです。

70周年ともなると、発団当時のことを知る者も少なくなり、また記憶の薄れてゆくことも多くなります。長い道のりの過程で抜け落ちていることも多く、この機に改めて「霊南坂スカウトの70年の歩み」年表の改訂版作成の準備を進めることになりました。どんなことでも思い出に残る事柄がありましたら、なん年に・どこで・どんな催しだったかをご一報いただきたいです。

”Once a Scout, always a Scout”はスカウトクラブの大きな指針です。今はそれぞれの道を歩まれスカウトのことを忘れていた方も、ぜひこの時、今一度懐かしの「霊南坂スカウト」を思い起こしていただけることを願ってやみません。

2017年4月29日（土）を70周年を祝う日といたしましたので是非ご参集ください。詳細はこれから練りに練られていざれ改めてご案内いたしますが、覚えていただき、当日は霊南坂の森に一人でも多くの懐かしい面々が集まれるのをお待ちしております。元気でその日を迎えられることを楽しみにしております。

#### 行事内容

##### ① 礼拝：後宮牧師

オルガン：今井奈緒子

司会、お祈り、献金等の担当は例年クリスマス礼拝と同じ。

##### ② 式典：テーマ「信じる心」に沿って実施する。

ディレクター：ガール：鈴木光代

ボーイ：小崎(信)

##### ③ 祝会（Teaパーティ程度）：

##### ④ 70周年記念パーティー：スカウトクラブが計画立案、実施を担当する。

## 70周年の節目を前にして 名誉団委員長

杉原 正

今年(2017年)は戦後70年。戦後70年の首相談話で世論が沸いた。終戦1年半後の1947年、霊南坂教会でスカウト活動が始まりました。いま70年の節目を前にしてスカウト運動に関わった一人として思うことがあります。

1年の節目を想うとき、“1年の計は元旦にあり”を思い起こします。作家の井上靖氏は(元旦に)の中で「お正月が何を意味するのかは知らない」としながら「人間の一生が少々長過ぎるので神様が、それを365日ずつに区切ったのだ。そして区切り、区切りの階段で人間がひと休みするということだ。」としています。

ある新聞のコラムを借りれば「1年365日の区切りを人生という階段に例えれば、5年、10年区切りは途中で設けられた踊り場だろう。」としています。踊り場である70年という<節目>は、人々がそこに佇んで「来し方」を顧みる(通り過ぎたあとを振り返って見る、もう一度考えてみる)。同時に「行く末」を見詰める(対象、目標から目をそらさずに、それだけを見続ける)ことではないか。この踊り場は「過去を忘れるな、振り返れ。」と自らを戒めて設けた知恵ではないでしょうか。この踊り場に向かって階段を進む後に続くスカウト達がいることを先に歩んだものは忘れてはならない。70年の踊り場の前に佇むとき、次の世代に何を繋げてゆくのか。とくにチャーチスカウトとして何を手渡(継承)すのか、が問われています。

ボーイスカウト、ガールスカウトの創始者B-Pがスカウト運動の理念に基づいて設けた「ちかい(やくそく)」と「おきて」に共通することは、「名誉にかけて(On my Honor)であり「おきて」の初めは“スカウトの名誉は信頼されることである”と提示しています。「スカウトは誠実である。」の副文に“スカウトの真の資格は、信用され得る人間のみと与えられる。信頼されて託された任務(役割)を正確に行うことなどは、すべてスカウトの名誉を保つ基礎である”としています。

いま現役で活動するスカウト、リーダーまたかつてスカウト、リーダーや関係者も踊り場に佇む70年の節目の前のこのとき、“Once a Scout, always a Scout”を心に深く留めたいと思います。“名誉にかけて”と誓い、“On my Honor”と約束したことを思い起こしつつ70年目の節目に備えたいと願っています。

## おもいで

大岩 久

1947年6月に、小崎朝子先生(芹野朝子先生)が初代リーダーとなり、ガールスカウト東京第四団は始まりました。はじめはアメリカ人のリーダーが指導にあたりましたが、すぐその手を離れて、教会学校の生徒を中心に「やくそくとおきて」で始まり、歌やゲーム、ダンスなどで楽しみ、なわむすび、救急法などを学ぶと、あっという間に2時間のミーティングが過ぎたのでした。

第二次大戦後、家や学校を焼かれ、食糧不足もあり、少年少女たちからは笑顔が失われていることに大人たちは責任を感じていました。GHQ(連合軍総司令部)は、そんな時ボーイスカウト・ガールスカウト運動を推進したのでした。

四団は、日本に駐在していた米軍人の子弟たちとの交流も盛んで、よく招かれてワシントンハイツや、グラントハイツに行き、歌ったり踊ったりゲームをしたり、つたない英語でおしゃべりをしたりして親睦を深めました。

1955年、スイスのアワ・シャレーで開催されたジュリエット・ロー・セッションに戦後初めての日本代表として四団から萬井潤子さんが選ばれ、京都の堀口愛子さんと共に参加しました。

キャンプは、はじめのうちは舎営でしたが、だんだん「テントで寝たい」要望が高まり、ついにBS四隊(現港1団)からテントを借りて八ヶ岳農場ではじめてのテント生活を体験したのでした。高塚伝道師(後の主任牧師)と父兄1人がガードをしてくださり「私の青春時代は戦争で楽しいことは何もなかった」というお母様も参加されてそれは楽しく、有意義なキャンプでした。

BS四隊(現港1団)とは、日赤の救急法の講習会、バスピクニック、子供会、クリスマス会など、よく合同で活動しました。

18歳で団を卒業した少女たちは、新しい団を作ったり、GSの国際的な仕事に携わったり、四団のブラウニーを発団させたりと様々な働きをしています。

団員数が増えた時は嬉しかったけれど、ものすごく減ってもう止めるしかないかと思ったこともあり、色々ありましたが、今創立70周年をむかえるのは感無量です。

「自分が幸せでいる時、世の中には不幸な人が大勢いる、ということをお忘れなでいられる人間でありたい」とは、キャンプファイヤーの時あるスカウトが誓った言葉です。



## 第23回 世界ジャンボリーが日本で開催されました



4年に1度開かれる「世界スカウトジャンボリー」は、2015年、山口県・きらら浜で第23回を開催し、世界162の国と地域から約3万5千人の青少年が集まり、和をテーマに2週間にわたり、キャンプをしながら「世界の仲間」と体験を共有しました。

霊南坂スカウトはボーイ隊から木村亮介、鈴木隆斗、戸部公晴、増田友紀、鈴木智之、北哲矢、ベンチャー隊から小原 晋、矢野智大君ら8名が参加しました。



### 「また行きたい！ジャンボリー！」

#### ボーイ隊 鈴木 隆斗

ジャンボリーの感想は『感動』の一言だ。

英語が苦手でも話せなくても楽しめる。ジェスチャーやスカウトと言うだけで、どんな国の人も友達になれる。一緒に活動し、一緒に感動できる。

地域訪問の小学校では地元の踊りを僕たちのために練習してくれて、上手に踊ってくれた。東京人と言うだけで子供たちが興味をしめし寄ってくる。一緒にけん玉や竹とんぼで遊び、帰る時にはもう少し居たいと思った。

ジャンボリーは人がいっぱい、どこでも並ぶ。列に並ぶだけで海外のスカウトと踊ったり、名刺交換して、その時間も楽しんで仲良くなれる。神輿を担げば大声でわっしょい、わっしょいと言うだけで仲間を集めて楽しみを共有することができる。

広島の Peace Module に出たのは2回だが、何度行ってもこの歴史は忘れる事のできない事だと思う。原

爆資料館に行った後原爆についてのビデオを見たその後自分の今の感想を言うということで、ある外国のスカウトが「もし核兵器を使おうとする人がいたらここに連れてきて原爆の悲惨さを見せたい」と言っていた。僕は、みんなの前で堂々と伝えてすごいなと思ってしまった。

僕の場合、ジャンボリーの始まる前からジャンボリーに来た海外スカウトと会うことができた。日本の知人を頼って、会場入りする前に、母の所属するガールスカウトの団に来て、交流していた。パレスチナとドイツの隊長は、「このスカウトの絆を大切にしたい、そして世界平和のつながりにしたい」と言っていた。苦手な英語だったけど、その気持ちと平和の言葉は僕にも伝わり大切にしたいと思った。

こんな僕を支えてくれた隊長たちやISTの人達、多くの人に感謝し、今度のジャンボリーでは、僕が支えられる様な人になれるよう、スカウト活動を続けて行きたいと思っている。



## 世界スカウトジャンボリーを訪れた皇太子殿下と ボーイスカウトの知られざるご関係

磯山友幸（経済ジャーナリスト）

山口県山口市阿知須のきらら浜で開かれた「第 23 回世界スカウトジャンボリー (23WSJ)」の会場を 8 月 2 日、皇太子殿下が訪れた。世界スカウトジャンボリーは、4 年ごとに中高生年代のスカウトと指導者が世界中から集まるキャンプ大会。今回は 7 月 28 日から 8 月 8 日までの 12 日間、158 の国と地域から集まった 3 万 3000 人を超す参加者が野外生活をしながら、様々な交流プログラムを行った。



会場を訪れた皇太子殿下は、色とりどりのテントが張られたキャンプサイトを訪れ、スカウト

たちを激励されたほか、各国のスカウト活動を展示したテントなどをご覧になった。また、大会期間中最大のイベントである「アリーナショー」でお言葉を述べられた。

「私自身、日本ジャンボリーに 1978 年以来、毎回参加してきたほか、1982 年と 1986 年のジャンボリーでは野外料理やテント生活を体験しました。私が非常に大事にしている、その素晴らしく、忘れられない思い出は、今も深く心に染み込んでいます」

そう皇太子殿下ご自身が英語で語られているように、殿下とボーイスカウトの交流の歴史は長い。殿下ご自身がスカウト関係者に語られたお話によると、学習院の初等科に通われていたころ、学校内のイベントで学習院のボーイスカウト「東京 21 団 (現・豊島 1 団)」が丸太とロープでモンキー・ブリッジを作り、子供たちを渡らせていたのだという。これをご覧になったのがボーイスカウトとの「出会い」だったそうだ。

1978 年に御殿場で行われた日本ジャンボリーには当時の皇太子 (今の天皇陛下) ご一家がおそろいで参加された。82 年に南蔵王で行われた 8 回大会では、皇太子殿下が代表スカウトたちとキャンプ生活を送られ、実際にテントで 1 泊されている。この実現を強く望まれたのは、同世代のスカウトたちとの交流を考えられた今の天皇陛下だったという。

ジャンボリー会場の一角で、3 人の指導者と全国から選ばれた 13 人のスカウトと共に、キャンプ生活を体験された。夕食を一緒にとられた後、キャンプ・フ

ァイアーを体験され、夜は 2 人のスカウトと共にテントで就寝された。「一般のボーイスカウトが行っていたキャンプ生活の一端を、できる限り味わっていただこうと考えた」とその際に隊長を務めた杉原正・ボーイスカウト日本連盟先達はのちに語っている。



よほど強く印象に残ったキャンプだったのだろう。翌 83 年 4 月には東京・赤坂にある東宮御所の庭で、同じメンバーによる 1 泊 2 日のキャンプが行われたという。来賓用ではない、ボーイスカウト流の本物のキャンプを体験したいというご希望で、テント張りから料理づくり、皿洗いまでを経験されたという。

2 日目のお昼には、皇太子ご夫妻 (現在の天皇后陛下) と礼宮殿下 (現在の秋篠宮殿下) もキャンプサイトを訪れ、浩宮殿下 (現・皇太子殿下) とスカウトたちが作ったカレーライスを召し上がられたそうだ。

当時の曾我剛・東宮侍従がこの時のスカウトたちメンバーのグループに、殿下のお印の「梓 (あずさ) にちなんで「梓友隊」(しゅうたい) と命名。その後も交流が続いているという。

1986 年の日本ジャンボリーでは別の代表スカウトたちとのキャンプ生活も体験されたほか、その後のジャンボリーも欠かさず参加されている。

2010 年に皇太子殿下がケニアを公式訪問された際には、ニエリ市にあるホテル・アウトスパンに立ち寄られた。実はこのホテルの敷地内には、スカウト運動の創始者だったベーデン＝パウエル卿 (B-P) が終の棲家としたコテージ「パックス・トゥ (Paxtu)」があるほか、B-P と妻オレブ・ベーデン＝パウエルの墓所もある。熱心なボーイスカウトでも中々訪ねることができないスカウトの「聖地」だ。

公表されている公式日程にはコテージを訪ねた事実は記載されておらず、スカウト関係者も長年それを知らなかったそうだが、梓友隊のメンバーに会われた際に、殿下ご自身から「B-P のコテージに行ってきました」と明かされたという。 (→次ページにつづく)



英国に行かれた際には、B-P が 1907 年に 20 人のスカウトたちと最初の実験キャンプを行ったブラウンシー島も、殿下自身のご希望で訪問されている、という噂がボーイスカウト関係者の間には流れているが、まだ公式には確認されていないという。

実は、皇太子殿下との交流以前から、ボーイスカウトと皇室の関係は非常に太い。1921 年に訪英した昭和天皇（当時は皇太子）が、ロンドンで B-P を謁見。その際、英国ボーイスカウトの最高功労章である「シルバーウルフ章」の献上を受けられている。

ボーイスカウト運動はそれ以前から日本に伝わり、全国に団ができ始めていたが、正式にスカウトの国際組織に加盟したのは、昭和天皇の B-P 謁見の翌年の 1922 年。昭和天皇はのちに、「日本にボーイスカウトを伝えたのは私です」とスカウト関係者に仰っていたと伝わっている。その頃からボーイスカウト草創の頃

から皇室との関係が始まっていたのだ。英国をはじめ世界の王室もボーイスカウトとの関係が深いことから、皇室とスカウト運動の関係は特別なものがあるのだ。

今回の世界スカウトジャンボリーには、ボーイスカウト運動発祥の地である英国からは 4000 人を超すスカウトと指導者による大派遣団が来日した。会場を訪れた殿下は英国隊のキャンプサイトを訪問された。

そのサイトには、前回、44 年前の 1971 年に静岡県朝霧高原で開催された「13 回世界スカウトジャンボリー」の写真や参加記事などが展示されていた。その写真には当時の皇太子殿下ご夫妻（現在の天皇皇后両陛下）のお姿が残っていた。その写真を皇太子殿下がご覧になったかどうかは、まだ確認できていないという。

(WEDGE REPORT より転載)

## 霊南坂スカウト ジャンボリーに参加

### 「外国スカウトとの交流」 ボーイ隊 北 哲矢

ぼくは、世界ジャンボリーに参加しているんなことを体験しました。

一番の思い出に残っているのが、外国人との交流です。外国人は、優しくてとてもフレンドリーでした。水くみの時は手伝ってくれたし、夜おみこしをかついでサイトをまわっている時は、サイトから出てきて、一緒に盛り上がりたりもしました。普段できない体験をジャンボリーではたくさんできたので、とても楽しかったです。生きているうちにもうスカウトとして参加することはないと思うので、この体験を一生忘れないようにしたいです。

### 「心の温かさにふれた」 ボーイ隊 鈴木智之

僕が一番印象に残っているのは、熱中症になった時に看病してくれた事です。僕は 3 日目の 16km ハイキングが終わった時に、吐き気と頭痛がしました。そのことを小原さんに話したら、『熱中症だから椅子にすわってまって』と言われたので待っていたら、濡れタオルとうちわを持ってきて、僕の顔と首に巻いてくれ、さらに頭から水をかけてくれてうちわで『寒くない?』と言いながらあおいでくれました。僕も小原さんみたいな班長になりたいと思いました。

僕は次の日も体調をくずして行けませんでした。しかし別の班の江前君に連れて行ってもらいました。その時僕は心の温かさにふれたことが、ジャンボリーでとてもいい経験になりました。



### 「スカウトは兄弟だ」 ベンチャー隊 小原 晋

今大会は私にとって人生で 2 回目のジャンボリーだった。何も知らずに参加した前回大会とは違い、ある程度勝手がわかっていたので前回以上に期待で胸を膨らませていた。しかし、前回とは大会の規模も違えば、環境も大きく違い、そして何より今回は班長という責任のある立場での参加だったので、前回以上に緊張していた。それでも始まってしまえば 1 人のスカウトとして楽しめた。とくに外国人スカウトとの交流では物を伝える難しさ、文化の相違を痛感させられた。何とかわかりあえた時の喜びは最高だった。「スカウトは兄弟だ」という使い古されたフレーズがあるが本当にその通りだと感じた。

最後にこのジャンボリーに参加するにあたって色々な方向から助けてくださったスカウト関係者の方にはとても感謝しています。本当にありがとうございました。



### 「ジャンボリーに参加して」 木村亮介 ボーイ隊

僕にとっては2回目のジャンボリー参加だった。今回は海外からも多くの人に参加するということで、僕は世界の人と100種類以上のワッペンやネッチリングを交換することを目標にした。実際にジャンボリーに行ってみるとまるで異国のようだった。

一番印象に残っていることは、東京一隊が東京タワーみこしを作り、台湾の人や目の前のサイトのブラジルの人たちとみこしをかついだことだ。言葉は十分に通じなくても、一緒に体験し、心の底から楽しむことで、仲間意識が生まれた。僕にとって初めての世界交流は、本当に楽しく、また心にとっても残る時間となった。

周囲のみなさんのおかげで、このような貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

### 「ジャンボリーに参加して」 ベンチャー隊 矢野智大

幸運な事に15NJと16NJにスカウトとして参加する事ができたので、今回の23WSJは人生で3回目のジャンボリーでした。WSJは今まで参加してきた日本ジャンボリーと違い、全世界のスカウトが一つの場所に集まりました。参加した33,000人のスカウトのうち4,000人が日本人だったそうですが、日本人に出会うことは少なく、海外のスカウトと交流するときは常に英語です。“ザックの交換を100人連続で断られた”など色々と交流の思い出は尽きませんが、今回一番衝撃を受けたバングラデシュとの交流の話をしたいと思います。

広島ピースプログラムへ向かうバスの中で、世界最貧国と言われているバングラデシュのスカウトと交流することができました。英語はあまり得意ではなかったのですが、“俺たちバングラって言葉を使うんだ〜。”だとか“豚肉食べるの!?俺たちはムスリムだから食べないんだよ。”などといった文化の共有をすることができました。彼らとFacebookで友達になることができたのですがWSJの終了後、彼らの“今日は最後のジャンボリー集会でした!”などといった投稿の数々は我々日本人と大差はないように見えます。我々以上に楽しく生活している海外の人の生活の一部を垣間見て、お金が無くとも幸せに楽しく暮らしているようで衝撃を受けました。

バングラデシュに一度足を運んで自分の目で直接彼らの生活を見てみたいと感じたので、今後可能であれば計画して行ってみたいと思います。



### 「ジャンボリーに参加して」 ボーイ隊 戸部公春

今回の世界ジャンボリーで一番印象に残ったのは、やはり、物々交換です。最初自分が交換した人は、フィンランドの人でした。その人とは、チーフとワッペンを交換しました。そのチーフはとてもきれいで黄色のうす地に折りづるのマークがついていたものでした。僕はそれを見た時はじめて外国の方と交換ができたと思い心の中でガッツポーズをしました。いま書いたように次々に交換していきました。そして交換した中で一番印象に残っているのは、ドイツの制服です。この制服は、尾崎くんという子といっしょに、会場を汗水たらしてさがしまわってやっと交換してもらえたからです。

最後に、今回のジャンボリーに行けて良かったです。年齢制限などがあり、行けなかったのかもしれないのに行けたのは、本当にありがたく思っています。

### 「ジャンボリーに参加して」 ボーイ隊 増田友紀

ぼくは、前回の日本ジャンボリーではワッペンの交換などあまりできなかったのですが、今回はたくさんできました。プログラムのネイチャーやウォーターでは山口の自然を肌で感じました。外国のスカウトと交流した思い出は一生の宝物です。この経験を後輩たちにも伝えていければいいなと思っています。次回の日本ジャンボリーに参加できたら、参加したいです。世界ジャンボリーでおぼえた事をふだんのキャンプで発揮できるようにしたいです。





## ボーイスカウト 夏のキャンプ

ビーバー隊 初島 7月25日  
～夏のたいせつな思い出～ すぎもと こうのすけ  
はまつ町えきでしゅうごうして、でん車で東きょうえきに行きました。

しんかんせんはじゆうせきだったので、じゆうにせきとりしました。せきがまどがわだったので、けしきがみえてたのしかったです。

あたまえきからタクシーでみなとに行きました。みなとからふね（いりどばかん3せいごう）で、はつしまにきました。いちにちでこんなにのりもののにのたのははじめてです。はつしまでは公園でおべんとうをたべました。サルトビアスレチックでは木から木へロープでつないだあすれちっくでこんなにたかいところのにぼるのははじめてで足がブルブルふるえました。いのちづなをつけてさいごまでいかないと家にかえれないのでしんぱいになりました。みんながおうえんしてくれて、わたりきれたのでうれしかったです。

カブ隊 山中野営場 8月16日～8月19日

### 山菅祐一郎

1年ぶりに大好きなキャンプに参加しました。今年は山梨県のボーイスカウト日本連盟のキャンプ場で、僕にとっては、いつも以上に特別のキャンプになりそうで、とてもとても楽しみにしていました。なぜならくまスカウトとして、組長として、最初で最後のキャンプだからです。そういう思いで気合を入れて行ったけど、天気はそんな僕とは正反対で4日間ほとんど雨や曇で元気がないてんきでした。でも、キャンプファイヤーもオリエンテーリングも外でできて、スカウトみんなが元気にすごせたので良かったです。



ボーイ隊 山中野営場 8月16日～8月19日  
濱田千太郎

今回ボーイスカウトの夏キャンプに参加できたことは、ぼくにとって非常に大きな経験となった。まず、何より大きなことは、日頃の活動で技術を身につけていることをすべて、実践してやらなければ、キャンプでの生活ができないことを実感したことである。大雨の中のテントはりは思った以上にくろうした。仲間ともうまく協力できなくて、家に帰りたいたとさえ思った。でも、時間がたつうちに、みんなともうちとけて、失敗を繰り返しながら、おいしいご飯が作れるようになったことで、日常では味わえないボーイスカウトの活動について考える良い機会となった。

この経験や仲間と協力することの大切さを次は学校や地域の活動に生かして行けるよう、これからボーイスカウトの活動をがんばっていきたくと思う。

## 短期ホームステイ

ジャンボリー終了後、10名のチェコのスカウトを5ファミリーで受け入れました。

山菅ファミリー (カブ隊 山菅祐一郎)

チェコの男女2名のホームステイ先として担当を致しました。海外の方をお迎えすることは初めてですので、全てが新鮮で大変貴重な機会を頂いたことを大変感謝いたします。

自宅では、日本食、特に海老のお刺身にチャレンジしたり、ポケモンについて子供たちともりあがったりしてすごしました。また、寝るのも子供たちで相談して、息子と娘と4人で子供部屋で楽しそうに寝ていました。パーティーや東京見物では、他のスカウトとも親子共に交流でき、大変貴重な時間を過ごさせて頂きました。見物先で楽しんだことはもちろんのこと、2日目のバスの中でジャンボリーのテーマソングの大合唱はとても印象深く、その後、私たちも自宅で何度も動画を見て盛り上がりました。ご準備頂いたリーダーの皆様へ深く感謝致します。有難う御座いました。





### 鈴木ファミリー

(ボーイ隊 鈴木隆斗、カブ隊 鈴木優斗)

～ホストファミリーの1日～

部屋の掃除OK！布団の準備もOK！

もうすぐ着くとの連絡を受け、玄関から部屋まで子ども達と大丈夫かとドキドキ、ワクワクしながら最終確認。車から降りてきた少女は二人とも背が高く、思っていたより元気そう、笑顔も可愛く安心しました。

彼女達も私達も緊張のなかでの自己紹介、部屋の案内と続きます。リラックスタイムと荷ほどきの時間をとってしばらくすると、もじもじしながら部屋から出てきて素敵なお土産をくれました。しだいに打ち解け始めた私たちは商店街の魚屋、肉屋、八百屋と買い物と一緒に行き、ついでに町を案内しました。

夕食は手巻き寿司に和食のおかず。鮪、鯛、エビと白身魚も何でも挑戦するカトカ、ワサビ寿司がお気に入りです。自分で巻くのも楽しいらしく、賑やかな食卓になりました。夜は、日本の夏を味わうべく阿佐ヶ谷の七夕祭りにいくと、知ってるキャラクターや気になる看板にシャッターを押しまくります。その写真を見て子どもたちと笑っている様子は、まだ十代の少女の顔をのぞかせていました。

2日目、団の観光から帰宅した彼女たちもジャンボリーから帰宅したばかりの息子もまだまだ元気。マンマミーヤの映画を見ながら歌って踊るユイピカ。日本語を教えると一緒にひらがなを学ぶカトカ。(この一晩でひらがなを読めるようになりました。)

3日目には子ども達みんな一緒に団の観光に出発しました。楽しい1日だったようで、夕方の団の懇親会で会った時には、笑顔と土産話に花を咲かす子ども達(彼女達も)でした。最後には、この短い2日間を愛おしく思い何度もハグし、互いの健康と安全を祈り、出会ったことに感謝しました。

他人の子どもを預かる、他人の家の子として生活する。どちらも不安と心配と大変さがあります。でもそれらを越えて味わう人との繋がりは、優しさで感謝と

感動が入り混じる良い経験となります。私も留学していたので、この経験で私のホストファミリーのありがたさを深く感じる事ができました。

こんな機会を与え、また東京観光を企画して下さった団の皆様、スカウト活動に感謝しています。



### ガールスカウト 夏キャンプ

#### ジュニア 鈴木 ひとみ 「すっごく楽しかった」

キャンプでの一番の思い出は、パトロールでやったネイチャーゲームです。キャンプ場は、広く道に迷ってしまったり、でもすっごく楽しかったです。キャンプファイヤーは、人数が少なくみんなが知らない曲だったりしてさみしかったです。70周年や来年は、ボーイスカウトの人達とガールスカウトの人達みんなで行きたいです。東京に近い千葉だったけれどキャンプをやれて良かったです。

#### ブラウニー 海 真凜 「軽井沢の夏キャンプ」

今年の夏、私は夏キャンプで軽井沢に行きました。初めてパトロールリーダーという立場をもらい、みんなの事を考えてまとめる事と、自分より小さい子や初めての仲間達とコミュニケーションをとる事を目ひょうにしました。パトロールリーダーの仕事は、リーダーから伝えられた事をみんなに知らせたり、グループの前に立って意見をまとめたりします。結果、みんなに「こうしてみる？」と声をかけたりして目ひょうを達せいできました。キャンプ中、みんなと一しょにお化けやしきへ行ったりオリエンテーリングをした時、みんなの意見が分かれて、パトロール内でけんかが起こって大変でした。でも「その人のきもちになって考えてみる。」という事をしてみたら、起こっていた問題が丸くおさまりました。今回、私はパトロールリーダーという立場で、むずかしい事が色々あったけれども、コミュニケーションの大切さがわかりました。これから、このキャンプでした事を生かして、もっと上手くみんなをまとめられる人になりたいと思いました。



## 「物語の世界を旅する」

### シニアレンジャースカウト一同



2015年のキャンプは久しぶりの野外で、スカウトらしいキャンプをしたいと願い、実現したキャンプでした。「物語の世界を旅する」のテーマ決めから、全てのプログラムも自分たちで決めることができました。

1日目。設営を終えた後、糸とビーズでアクセサリを作りました。

2日目。「ピーターパン」をテーマにインディアンと出会うというシーンから、インディアンのお守りドリームキャッチャーを思い思いに作りました。粉をこね

るところから始め、ダッチオープンでパンを焼き、夜もピーターパンのテーマでキャンプファイアをしました。スカウト定番のサモアも食べ、これぞ“キャンプの夜”という楽しい時を過ごしました。

3日目の早朝、「私にとってガールスカウトとは」をテーマにスカウトタウンをしました。互いに語り合い、自分自身を見つめ直し、今後ガールスカウトとしてどのように活動していくかを考えました。(スカウト運動も1冊の本から始まっているのです。バーデン・パウエルは自然の中での活動を大切と考えていました。なので、私たちも・・・) キャンプ場の豊かな自然の空気をたくさん吸収しながらヨガで体を動かしました。温泉に行ったり、花火をしたり、スカウトソングも沢山歌い、プラン通り全部しました。

4日目。撤営後、富士山の麓、山中湖の湖畔に出てアヒルのボート(みにくいアヒルの子)に乗って遊び、湖の広さと波の音、きらめく水面を肌で感じ、自然の美しさを感じました。

「自分たちのしたいプログラム」を何故したいのかを考えること、どうしたら実行できるか計画することはとても難しく大変でした。でも、自分たちで考えて行動するからこそ、今年のキャンプでも沢山のことを学ぶことができました。

## スカウトクラブ情報

### New York の荒垣恒英兄を囲んで

去る9月19日、久しぶりに来日されたNew York在住の荒垣恒英兄を囲んで懐かしく楽しい秋の一夜を持ちました。

生憎、新しく制定された秋の連休シルバークロウとやらで、お集まりいただける方が限られましたが、石田隆一・杉原正兄らなどとつきぬ話の花をさかせました。余りのおしゃべりに夢中で、誠に残念ながら写真を撮るのも忘れしました。

流石に皆さん加齢には逆らえませんが、意気盛んで何時までもスカウトであることには変わりありませんでした。2017年に迎える「霊南坂スカウトの70周年」には頑張っって元気で再会することを約束しました。

遠く海外にあっても何時もスカウトクラブのことを覚えてしっかり賛助くださり感謝です。

### 霊南坂教会バザー

今年も教会バザーにスカウトクラブも霊南坂スカウトの一員として参加しました。

“産地直送・無添加・手作りルバーブジャム” “豆乳ココアムース” “コーンパン” “チュロス” が恒例となりましたスカウトクラブの健康と美容に最高のメイン商品ですが、今年はOGからの特別献品を特別価格で提供の可愛いぬいぐるみの動物たちが子供たちのイヤ大人にも大人気で喜んでいただきました。





スカウトクラブ 年会費・賛助金 納入者名(年度に拘らず)

(敬称略)

豊南坂スカウトクラブは皆様の年会費と賛助金、バザーなどでの収益金によって運営しております。

今年より「ゆうちょ銀行」振込先番号が変わりました 00170-4-765234 の伝票をお使いください。

Hennings 光 (山崎)	大塚 多恵子	小河 るり子	高橋 温子	深瀬智子 (五十嵐)
Lee 直美江 (太田)	大槻 敬太郎	小坂 洋子・秀一	高橋 俊	藤井千鶴子 (長谷部)
Ritchie 昌子 (萩原)	大槻 将嗣	小崎 敬子	高橋 準一	藤沢 ゆう子
Wybom ルミ子 (村越)	大中 誠	小崎 忠雄	高橋 弘長	古矢 紘一
青木 義明	大浜 良友	小崎 美恵	竹本 裕子	古谷 久代 (岸田)
縣 麻里子 (五十嵐)	大室 洋子 (伊藤)	小林 昭夫	龍 茂久	伯耆 柚子 (小島)
朱村 宏	岡田 茂	小林 孝江	龍 忍・永久子	真木 宗一郎
浅田きよみ	岡田 靖子 (神藤)	後藤田 淳子	田付 茉莉子 (大内)	牧 輝子 (奥村)
足立 園恵 (八木)	岡本 友子	小田島 典子	龍澤 ゆり子	牧野 暉子 (花崎)
足立 ふみ (竹内)	岡田 洋子	小松 正太郎	田中 新二	増田 光春
安積 発也	小川 朋子	小宮 忠紀	田中 節子 (大飼)	松下 俱子 (三木)
荒垣 恒英	沖本 尚子 (小久保)	小柳 末利 (中川)	田村 真美子 (津布久)	萬石 敏夫
有馬 健太郎	尾崎 裕幸	西郷 崇子 (原)	中郡 伸一	南 ひろ子 (石川)
安西 松江	小澤 宏亘	斎藤 圭子 (厚木)	塚田 洋子	宮治 美江子 (黒部)
飯島 千恵子 (井出)	小田島 典子	斎藤 忠雄・芳子	寺田 善次郎	村田 守昭
飯泉 和行	落合 光治	斎藤 文雄	遠山 兼宏	百塚 健一
飯田 誠子	海上 春之	*匿名希望Sさん	時枝 紀子	百塚 正恵
五十嵐 佐和江	葛西 瑛子・邦武	榊原 直子	戸田 健次郎	百塚 竜一
五十嵐 洋子	笠木 悦子 (佐脇)	桜井 啓子 (中野)	友常 明子 (里見)	森下 あつ子 (高田)
井川 重夫	片岡 孝	笹本 信子 (中田)	豊田 麻利子 (針替)	盛田 秀夫
池田 早苗 (清水)	可知 清和	佐藤 馮	内藤 知恵子 (針替)	森田 真知子 (栗原)
石井 喜美江 (今田)	加藤 佑二・美江	佐藤 智子	内藤 正樹	森本 健司
石井 道子	金森 勝芳	佐藤八重子 (小鹿)	長井 利美	矢澤 宏子 (内山)
石川 正巳	金子 和樹	澤田 明秀	中郡 伸一	安川 清一
石田 隆一	金子 康子 (加藤)	篠沢 明	中島 国昭・文子	柳 健一
五十野 和男	神谷 和子	嶋内 理恵子 (永山)	中島 千賀子	山崎 亜子 (伊藤)
井出 奈々子	川 正興	島村 寛	中田 豊	山崎 久子
伊藤 由紀子	川 洋子	志水 功	中谷 和子	山田 紀代 (堀越)
大飼 勇雄	河合 潤子 (萬井)	清水 康輝	中村 秀美 (菅野)	山田 里絵子
井上 純	川寄 豊	清水 裕	中村 美津江 (佐藤)	山田 良子
井上 大成	川名キヨミ	下河辺 元春	長山 紀美代	山寺 健基
井上 登志子	川並 光昭	上子 千珠子 (鷺崎)	永山 茂樹	大和 健二
今井 哲哉	川原 るみ子 (百塚)	白井 満	永橋牧子 (黒部)	大和 秀一
今井 奈緒子	菊田 方晴	城所 繁子	西石垣 文江 (今田)	山本 純代
石見良明	菊本 悦子	神藤 英昌	西川 安子 (九鬼)	鎗山 宝栄 (劉)
上原 榮一	木崎 かおる (柳)	菅家 朗	西谷 芳美 (渡邊)	横山 恭二
宇佐美 暁	城所 繁子	杉田 憲彦	野口 佐都子	横山 登・俊夫
宇佐美 幸子	岸田 順子 (池田)	杉原 正	萩原 真伊子 (山田)	与謝野 馨
臼井 純一	木田 節子 (遠藤)	杉原 直明	長谷川 幸男	吉田 恵子 (大塚)
宇田川 和子	北畑十思子 (長谷川)	鈴木 栄子 (関本)	畠山 幸子 (新井)	吉田 進
宇田川 淑明	北原 陽介 (矢澤)	鈴木 治之	服部 保子	米本 玉江
海上 春之	北村 直子 (矢澤)	鈴木 晴江 (中川)	浜野 恵子 (小林)	脇村 聡子
浦野 須磨子	木下 忠昭	鈴木 孝典	林 美枝子 (大久保)	脇村 仁樹
浦野 真生	木下 靖枝 (松井)	鈴木 武夫	林田 町子	脇崎 茉莉子
遠藤 斗紀雄	木村 恵子 (田中)	鈴木 範子 (豊原)	林田 勇武	鷺崎 文彦・康子
大石 朋子 (松崎)	九鬼 隆甫	鈴木 浩之	原 陽一	和田 富士子 (鈴木)
大石 みちこ	日下部 英一	須田 美弥子	針替 茂人	渡辺 邦子
大岩 久 (志水)	櫛部 ふじ	諏訪原 礼子(斎藤)	針替 富美子	渡辺 澄
大内 真人	来代 早苗	関口 敦夫	半田 貴久	渡辺 博・邦子 (間宮)
大賀 由紀子 (小久保)	倉田 侑貴子 (檀上)	関山 真理子 (川)	檜垣 君子 (鈴木)	渡辺 誠
大川 修	倉持 和子 (安保)	芹野 朝子 (小崎)	日野 珠子 (日下部)	渡辺 雅弘
大故 晋一	倉持 雅人	高嶋ひろ子 (渡邊)	平井 幸彦	
大島 啓義	黒田 朋子 (国谷)	高玉 大	平木 庸匡	
太田 幸子	黒部 愛子	高鍋 美和 (加藤)		
大谷 徳義	黒部 峰子	高柳 彰男		
	小池 四郎			
	小池 緑 (西家)			
	河内 潔			

\* 前号を修正しました、記載漏れなどがありましたらお知らせください。

## 霊南坂スカウトクラブ 告知板

### 本年度(2016年)

#### スカウトクラブ総会の件

霊南坂スカウト創立を記念して毎年2月22日にちかい日曜日は霊南坂教会全体がスカウトサンデーとして礼拝を守ります。

10時15分からの礼拝後、スカウト関係者による愛餐会で昼食後、14時からスカウトクラブ総会を開催いたします。

議題は

- 1：昨年度事業報告と会計報告
- 2：本年度事業計画と予算案
- 3：70周年記念行事について
- 4：70周年記念協賛金について
- 5：スカウトクラブ会長選任の件



#### スカウトクラブのホームページ

霊南坂スカウトの最新情報や昔懐かしい写真など、いろいろな情報が詰まったホームページを運営しています。

<http://reinanzaka-sc.o.oo7.jp/>  
伝言板コーナーに、ふるって投稿をお願いいたします。

皆様からの情報提供をお待ちしています。

住所変更、メールアドレスの変更などありましたら、霊南坂教会内スカウトクラブ宛またはeメールで下記にお知らせください。[taakos@nifty.com](mailto:taakos@nifty.com)

この会報への広告出稿をお願いいたします。

サイズ：11.3×8.2cm

掲載料：1回3,000円×年2回予定  
デザインなどはスカウトクラブでもお手伝いいたします。

### 月例オープン集会

ぜひご参加ください。現役時代に  
戻り・話して食べて・楽しい集会に  
したいと計画しております。

原則毎月（8月は休）第2水曜日  
（祭日の時は第3水曜）19時～  
神谷町の「エリー」で開催していま  
す。

#### 会費の納入をお忘れではないですか？

スカウトクラブは現団への支援、会報印刷、通信費など、皆様の会費とバザーの収益金、賛助金で運営しています。毎年の納入をお願いいたします。

**今年度より振込先「ゆうちょ銀行」の番号が変わりました。00170-4-765234 の伝票をお使いください。**

\*\*\*\*\*

他行からの振込の場合は  
ゆうちょ銀行：店名（店番）019（ゼロイチキョウ）店 当座 0765234  
口座名：霊南坂スカウトクラブあてをお願いいたします。

~~~~~  
霊南坂スカウトクラブ会費等

入会金：1,000円

年会費：3,000円

但し、同居家族2人めから2,000円

賛助金：歓迎いたします  
~~~~~

#### スカウトクラブへのメールは

御意見、ご希望、ホームページ、会報などへの情報は下記にお寄せください。[usui4669@hotmail.co.jp](mailto:usui4669@hotmail.co.jp)

### 霊南坂スカウトクラブ役員

会長	故・小崎忠雄
会長代行	西郷崇子
	総括
副会長	田中新二
	クラブ会報編集長
会計	臼井純一
会計	檜垣君子
総務	倉持雅人
総務	戸田健次郎
書記	塚田洋子
書記	西谷芳美
書記	小田島典子
通信	矢澤宏子
広報・団	清水康輝
広報・HP	臼井純一
教会・団	古谷久代
	ガールスカウト団委員長
監事	日下部英一
監事	柳 健一



# 戸田クリーナーズ

柿ノ木坂店 〒152-0022

東京都目黒区柿ノ木坂 3-4-9

TEL: 03-3422-5538

FAX: 03-3421-3034

### 編集後記

昨年8月の酷暑の中の「第23回世界ジャンボリー」では、スカウトたちの強靭さとパワーに感動しました。スカウト運動がある限り世界平和は保たれると確信したのと同時に、スカウト運動の素晴らしさと、重要性を再認識した次第です。

いよいよ来年は霊南坂スカウト発足70周年を迎えます。就職して仕事に熱中のあまり約40年間離れていたスカウト心がよみがえり、スカウトクラブに参加しました。あなたも是非スカウトクラブにご参加ください。田中新二